

1. 方言研究の資料としての昔話資料

ことばの研究には、文字で書かれたテキストから用例を採集し、分析する方法がある。方言研究では、多くの場合、日常の生活言語である話しことばを研究対象とし、読まれることを前提として書かれたテキストを研究の中心に据えることはしてこなかったが、談話の文字化資料が有効な方言研究の調査資料になるように、「日常言語の再現度」の高い資料であれば、「読まれることを前提として書かれたテキスト」の中にも、方言研究に有効に活用できるものは十分に見いだせる。その有力な資料の一つが、方言で書かれた昔話資料である。

日本における昔話のテキスト化は、民俗学の分野で盛んに行われてきており、研究報告書から一般向けの読み物まで、我々が入手できる刊行物も多い。その中には、あらすじのみのものや記録者による脚色が多く「日常言語の再現度」の低いものもある一方で(日高 2013b)、話者の語りを忠実に記録したものや、当該方言に通じた記録者が表現を整えたものなど、方言研究の資料として活用できるものも多く見られる。

方言研究にとって幸いなことに、民俗学における昔話（口承伝承）の記録の指針を説いた柳田国男は、口承伝承と方言を一体のものとして見ていた。柳田国男・関敬吾編『昔話採集手帖』（1936年、民間伝承の会）は、「採集上の注意」として、以下の8項目を挙げている（石井 2003）。

- 一、話者は何時、何処で、誰に話を聴いたかも可能な限り書きとめて下さい。
- 二、伝承者の場合は旅行の範囲、個人の職業のみでなく、家の職業等も注意して下さい。
- 三、伝承者の性格、例へば創造的な性格の人か、純伝承型の人か注意して下さい。
- 四、昔話を何と呼んでゐるか書きとめて下さい。
- 五、初句、挿入句、末尾の言葉は書きとめて下さい。
- 六、話者の言葉はそのまゝ保存して下さい。
- 七、個々の話を話者はなんといふ名で呼んでゐるか注意して下さい。
- 八、話者には話を扮飾せぬやうにして貰って下さい。

話者の属性や伝承の系譜に注意することや、口承伝承に関する用語や定型表現への注意に加えて、話者の使用言語をそのまま記録することを標榜している。この指針はその後の昔話の採集者にも自覚されており、たとえば後述する「読みがたり各県のむかし話」シリーズには、研究者向けではなく一般向け、特に子ども向けの図書でありながら、以下の序文に見られるような編集方針が示されている。

この本は、府下の各地に今も残っているむかし話や、忘れ去られ、消えほろびようとする話を、現地の先生方が、直接、古老をたずね歩いて採集し、さらに再話して子ども向けの楽しい読みものにまとめたものです。話し手の語りくちを生かし、方言もそのまま

にしました。(『読みがたり大阪のむかし話』より)

我々に課せられるのは、こうした昔話資料の中から、「日常言語の再現度」の高い資料を精査し、研究資料として整えていくことである。〔資料1〕に、全国規模で収集・編纂された昔話シリーズのうち、筆者が入手し、内容を確認した昔話文献の一覧を挙げるので、参考にされたい。

2. 調査事例紹介：「読みがたり各県のむかし話」シリーズ

〔資料1〕のうち、⑨「読みがたり各県のむかし話」シリーズ（以下「読みがたりむかし話」）を用いた調査事例を紹介したい。

「読みがたりむかし話」は、日本標準から1973～1978年に刊行された「各県のむかし話」シリーズの改訂版として、2004～2006年に刊行された昔話集（各県1巻・全47巻）である。各県の国語教育関係者等によって、県内各地から採集・再話された昔話が収録されている。「ふるさとのことばを味わう」ことを編集方針とし、各巻とも冒頭にその地域の方言についての解説があり、本文の大部分が方言で記述されている。

他社から刊行された昔話シリーズの多くは、昔話の採集量の多い地域や話者に巻構成が片寄る傾向があり、必ずしも全国の方言をまんべんなく俯瞰することには適していない面があるが、「読みがたりむかし話」は、都道府県別に各巻とも同程度の分量（40～70話、60,000～80,000字程度）が収録されており、各巻に携わる話者・再話者・編者の数が多く、地域内での採話地のバランスが考慮されている点で、全国の方言を俯瞰的に対照するのに適した資料であると言える（日高2018）。

この資料を使用した調査事例としては、日高（2013a・2018）、野間（2014）、酒井（2019）などがあるが、ここでは、近畿地方の各府県の各収録地域（図1参照）ごとに集計した接続詞の使用率を図2に示す。

集計対象とした接続詞は、使用頻度の高い、確定条件類（ダカラ・ソコデ類）、仮定条件類（スルト・ソウシタラ類）、添加類（ソシテ・ソレデ類）、逆接類（ケレドモ・トコロガ類）である。調査にあたっては、各収録地域の言語量に大きな差がでないように、調査対象とする話数を調整した。また、この資料の中には、笑い話系の非常に短い話も収録されているが、そうした話が多数含まれると出現する接続詞にも片寄りが生じるため、調査対象を一定の長さのある話に限定するなどの調整を行った。

逆接類の割合が高い話は展開に起伏を付けた語り口調になっているが、このタイプは京都・大阪・兵庫の近畿中央部に集中する傾向がある。仮定条件類、添加類の割合が高い話は起伏の少ない淡々とした語り口調になっているが、このタイプは三重・滋賀・奈良・和歌山という近畿周辺部に見られる。

語りのタイプに地域差があること、その地域差が一定の範囲に共通するものになっていることがわかる。

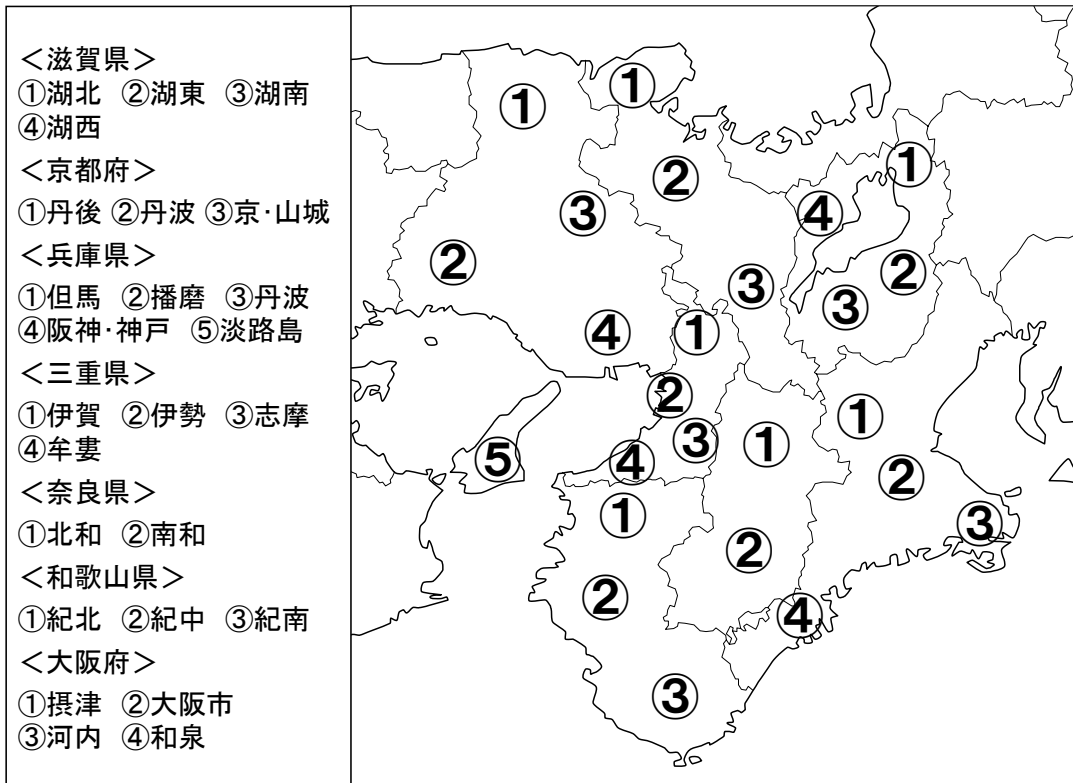


図1 収録地域位置図

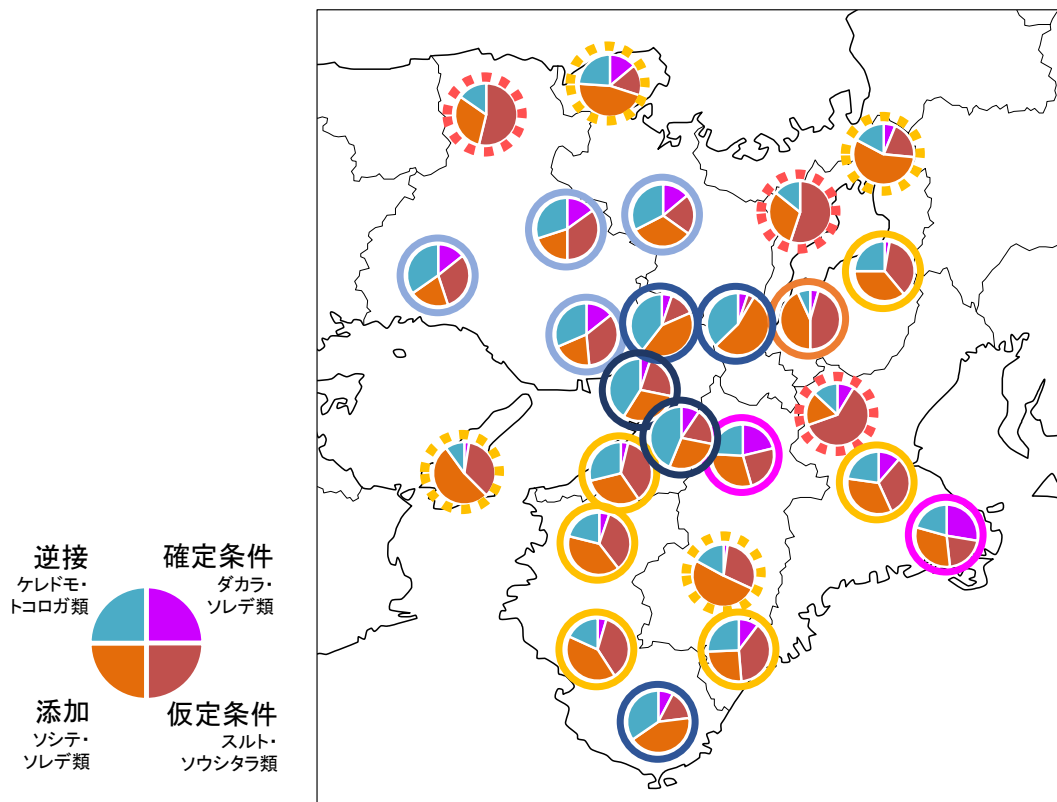


図2 「読みがたりむかし話」の接続詞の使用率

3. 調査事例紹介：「方言ももたろう」

「方言ももたろう」とは、1989-1992 年度科学研究費補助金重点領域研究「日本語音声における韻律的特徴の実態とその教育に関する総合的研究」（代表：杉藤美代子）によって、全国約 100 地点で収録された昔話「桃太郎」の冒頭部分の音声データである。以下の共通語文を各地方言に翻訳し、現地の話者の実演音声を収録している。

- ①むかし むかし あるところに おじいさんと おばあさんが ありました。
- ②おじいさんは 山へ しばかりに おばあさんは 川へ せんとくに 行きました。
- ③おばあさんが せんとくを していると 川上から 大きな ももが どんぶらこ
どんぶらこ 流れてきました。
- ④おばあさんは その ももを ひろって 家へ 帰りました。
- ⑤おばあさんが ももを 切ろうとすると ももが ふたつに われて なかから
大きな 男の子が 生まれました。
- ⑥おじいさんと おばあさんは その子に 桃太郎という 名前を つけました。

この調査にもとづく既刊の音声資料には、以下のものがある。

- (A) 杉藤美代子監修・著『CD-ROM 方言ももたろう』富士通 B S C (『マルチメディア方言ライブラリ 日本列島ことばの探検 全国編』(1998 年刊行、富士通 B S C) の増補版)
- (B) 佐藤亮一監修 (1997) 『日本の方言大研究 7 ききくらべよう 日本の方言』ポプラ社
- (C) 佐藤亮一監修 (2002) 『お国ことばを知る 方言の地図帳 (新版 方言の読本)』小学館
- (D) 佐藤亮一監修 (2007) 『ポプラディア情報館 方言』ポプラ社

上記の資料に収録された音声の対照表を〔資料 2-1〕に示す。(A) には 55 地点 (話者)、(D) には 47 都道府県から 1 地点 (話者) ずつの音声が収録されており、(B) (C) の音声は (A) (D) のいずれかに収録されている。(A) と (D) の重複地点 (話者) 数は 31 で、異なり地点 (話者) 数は 71 である。(D) には、監修者による文字化資料が付されているが、(A) は音声データのみを収録した資料であるため、(A) のみに収録されている 24 地点 (話者) 分の音声は、筆者が聞き取り、文字化資料を作成した。

日高 (2018) では、述語部分「ありました」「行きました」「流れてきました」「帰りました」「生まれました」「つけました」に相当する各地方言訳を抜き出し、ノダ相当形式と伝聞形式の出現パターンを分析したが、同じ資料から、敬語 (尊敬語、丁寧語) の出現パターンを表示したのが〔資料 2-2〕である。この資料から、各地点ごとに尊敬語/丁寧語の使用の有無を整理して示すと図 3 のようになる。

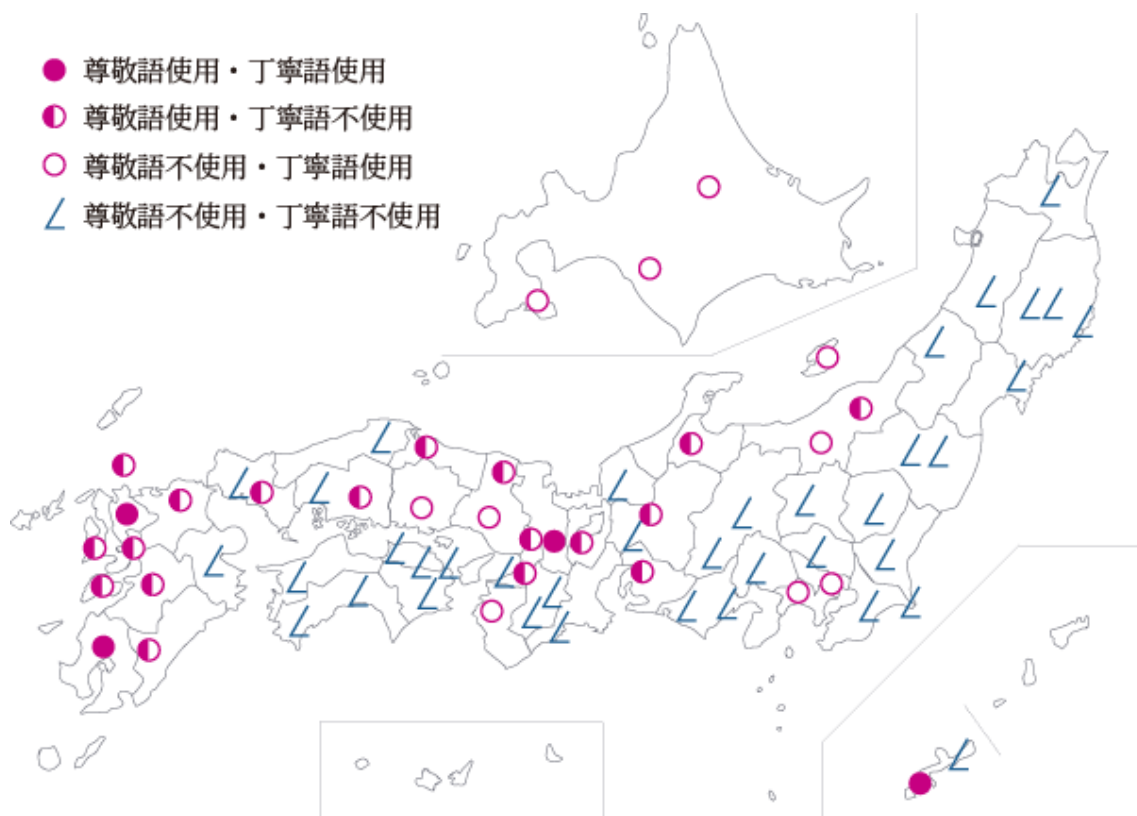


図3 「方言もたろう」の敬語使用

丁寧語の使用は元の共通語文に合わせて使用されていると見られる例もあり、その傾向は東日本に顕著である。一方、尊敬語の使用は西日本に片寄っているが、ここから、方言敬語が多様で使用頻度も高い西日本では、昔話の登場人物への尊敬語使用も定着していることがわかる。

4. おわりに

「方言もたろう」は、方言収録の共通のテキストとして、昔話「桃太郎」が選ばれたものであり、厳密な意味では、地域固有の口承伝承を記録した昔話の資料とは言えないが、共通のテキストを、方言訳したうえで音声収録した資料としては、全国規模の調査であり、活用の幅は大きい。収録音声の全データが公開されているわけではないが、少なくともここで紹介したものは公刊されており、入手可能である（(A)は現在は市販されていないが国立国語研究所には所蔵されている）。

既存の昔話資料を方言研究に活用するためには、資料ごとに「日常言語の再現度」を認定する「目利き」が必要で、「目利き」としての方言話者への確認作業は急務である。また、これまで蓄積されてきた方言研究の知見との照合による検証作業も欠かせない。そうした作業を経て、既存資料を整備し、活用していくことが、方言研究の幅を広げていくことになると思う。

〔資料1〕 方言資料としての日本昔話文献

資料概要	各巻タイトル	
①関敬吾『日本昔話大成』全12巻（角川書店）1978～1980年（『日本昔話集成』全6巻、1950～1958年の増補改訂版）	1 動物昔話／2 本格昔話(1)／3 本格昔話(2)／4 本格昔話(3)／5 本格昔話(4)／6 本格昔話(5)／7 本格昔話(6)／8 笑話(1)／9 笑話(2)／10 笑話(3)／11 資料篇／12 研究篇	<ul style="list-style-type: none"> ・話型別に編集。 ・代表話を冒頭に全文掲載。方言のものもあるが主流ではない。
②稲田浩二・小澤俊夫責任編集『日本昔話通観』資料篇29巻／研究篇2巻（同朋舎出版）1977～1998年	1 北海道（アイヌ民族）／2 青森／3 岩手／4 宮城／5 秋田／6 山形／7 福島／8 栃木・群馬／9 茨城・埼玉・千葉・東京・神奈川／10 新潟／11 富山・石川・福井／12 山梨・長野／13 岐阜・静岡・愛知／14 京都／15 三重・滋賀・大阪・奈良・和歌山／16 兵庫／17 鳥取／18 島根／19 岡山／20 広島・山口／21 徳島・香川／22 愛媛・高知／23 福岡・佐賀・大分／24 長崎・熊本・宮崎／25 鹿児島／26 沖縄／27 補遺／28 昔話タイプ・インデックス／29 総合索引／30 研究篇1：日本昔話とモンゴロイド昔話の比較記述／31 研究篇2：日本昔話と古典	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県別の巻構成。各巻は話型別。 ・既刊の昔話集から収集した話を話型別に編集したもの。 ・話型ごとに代表話が全文掲載されている。方言のものも多い。
③『日本の昔話』全30巻（日本放送出版協会）1973～1980年	1 若狭の昔話／2 アイヌの昔話／3 久永ナオマツ姫の昔話／4 羽前の昔話／5 伊予の昔話／6 近江の昔話／7 奄美諸島の昔話／8 越後の昔話／9 美作の昔話／10 遠野の昔話／11 永浦誠喜翁の昔話／12 東瀬戸内の昔話／13 紀伊半島の昔話／14 出雲の昔話／15 伯耆の昔話／16 美濃の昔話／17 浪速の昔話／18 備後の昔話／19 肥後の昔話／20 羽後の昔話／21 丹後の昔話／22 下野の昔話／23 西瀬戸内の昔話／24 対馬の昔話／25 土佐の昔話／26 加賀の昔話／27 石見の昔話／28 武蔵の昔話／29 信濃の昔話／30 沖縄の昔話	<ul style="list-style-type: none"> ・地域別の巻構成。 ・話者情報（氏名・出身地・生年）が明記されている。 ・ほぼ方言で記載されている。
④『昔話研究資料叢書』全18巻、別巻6巻（三弥井書店）1971～1992年	1 蒜山盆地の昔話／2 国東半島の昔話／3 佐渡国仲の昔話／4 大山北麓の昔話（鳥取県東伯郡東伯町赤崎町）／5 甌島の昔話（鹿児島県薩摩郡上甌村・下甌村）／6 越中射水の昔話（富山県射水郡）／7 茨城の昔話／8 奥備中の昔話／9 陸奥二戸の昔話／10 飯豊山麓の昔話／11 越後黒姫の昔話／12 那珂川流域の昔話／13 因幡智頭の昔話／14 南加賀の昔話／15 陸前の昔話／16 房総の昔話／17 種子島の昔話／18 西三河の昔話／別巻：黄金の馬／別巻：アイヌの昔話／別巻：警女の語る昔話・杉本キクエ唄昔話集／別巻：肥前伊万里の昔話と伝説・松尾テイ唄の語る昔話／別巻：水ぐるま・蒲原タツエ唄の語る昔話／別巻：沖縄・首里の昔話・小橋川共寛翁のチティバナシ	<ul style="list-style-type: none"> ・地域別の巻構成。 ・話者情報（氏名・出身地・生年）が明記されている。 ・ほぼ方言で記載されている。

<p>⑤『全国昔話資料集成』全40巻(岩崎美術社)1974~1984年</p>	<p>1 羽前小国昔話集(山形) / 2 北蒲原昔話集(新潟) / 3 鹿児島昔話集(鹿児島) / 4 白山麓昔話集(石川) / 5 安芸国昔話集(広島) / 6 肥後昔話集(熊本) / 7 津軽昔話集(青森) / 8 西播磨昔話集(兵庫) / 9 西讃岐地方昔話集(香川) / 10 東祖谷昔話集(徳島) / 11 福岡昔話集(福岡) / 12 角館昔話集(秋田) / 13 利根昔話集(群馬) / 14 芸備昔話集(広島) / 15 奄美大島昔話集(鹿児島) / 16 甲州昔話集(山梨) / 17 大分昔話集(大分) / 18 下野昔話集(栃木) / 19 加賀昔話集(石川) / 20 武蔵川越昔話集(埼玉) / 21 島原半島昔話集(長崎) / 22 越後宮内昔話集(新潟) / 23 土佐昔話集(高知) / 24 真室川昔話集(山形) / 25 恵那昔話集(岐阜) / 26 脊振山麓昔話集(佐賀) / 27 但馬昔話集(兵庫) / 28 阿仁昔話集(秋田) / 29 陸前昔話集. 宮城) / 30 伊豆昔話集(静岡) / 31 吾妻昔話集. 群馬) / 32 東讃岐昔話集(香川) / 33 奥出雲昔話集(島根) / 34 陸前伊具昔話集(宮城) / 35 武相昔話集(神奈川) / 36 石見昔話集(島根) / 37 庄内昔話集(山形) / 38 下北半島昔話集(青森) / 39 沖永良部島昔話集(鹿児島) / 40 奥信濃昔話集(長野)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域別の巻構成。 ・話者情報が明記されている巻とそうでない巻がある。 ・方言で記載されている巻とそうでない巻がある。
<p>⑥『日本の昔話』全18巻(未来社)1958~1981年</p>	<p>1 とんと昔があつたげど(越後の昔話) 第1集 / 2 とんと昔があつたげど(越後の昔話) 第2集 / 3 すねこ・たんぱこ(岩手の昔話) 第1集 / 4 すねこ・たんぱこ(岩手の昔話) 第2集 / 5 とんと一つあつたてんがな(越後の昔話) / 6 くつたんじじいの話(対馬の昔話) / 7 手つきり姉さま(五戸の昔話) / 8 いきがポーンとさけた(越後の昔話) / 9 秋田むがしこ第1集 / 10 半びのげな話: 日向の昔話 / 11 候えばくばく(讃岐・塩飽の昔話) / 12 秋田むがしこ第2集 / 13 むがす、むがす、あつとごぬ(宮城県仙北の昔話) 第1集 / 14 しゃみしやつさり(飛騨の昔話) / 15 きつちよむ話・和尚と小僧 / 16 ほらと河童と雪女(津軽=車力の昔話) / 17 昔まっこう猿まっこう(土佐の昔話) 第1集 / 18 昔まっこう猿まっこう(土佐の昔話) 第2集</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域別の巻構成。 ・話者情報が明記されている巻とそうでない巻がある。 ・方言で記載されている巻とそうでない巻がある。
<p>⑦『新装日本の民話』全12巻(ぎょうせい)1995年(1978~1979年刊行の『日本の民話』の新装版)</p>	<p>1 北海道 / 2 東北 (一) 青森・岩手・宮城 / 3 東北 (二) 秋田・山形・福島 / 4 関東 / 5 甲信越 / 6 東海・北陸 / 7 近畿 / 8 山陰 / 9 山陽 / 10 四国 / 11 九州 (一) 福岡・佐賀・長崎・熊本 / 12 九州 (二) 大分・宮崎・鹿児島・沖縄</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域別の巻構成。 ・話者情報が明記されている。 ・採話地が市町村単位で明記されている。 ・ほぼ方言で記載されている。

<p>⑧『新版日本の民話』全75巻・別巻4巻（未来社）2015～2017年（1957～1980年刊行の『日本の民話』の新版）</p>	<p>1 信濃の民話／2 岩手の民話／3 越後の民話／4 伊豆の民話／5 讃岐の民話／6 出羽の民話／7 津軽の民話／8 阿波の民話／9 伊豫の民話／10 秋田の民話／11 沖縄の民話／12 出雲の民話／13 福島の民話／14 日向の民話／15 飛騨の民話／16 大阪の民話／17 甲斐の民話／18 佐渡の民話／19 神奈川の民話／20 上州の民話／21 加賀・能登の民話／22 安芸・備後の民話／23 安芸・備後の民話／24 宮城の民話／25 兵庫の民話／26 房総の民話／27 肥後の民話／28 薩摩・大隅の民話／29 周防・長門の民話／30 福岡の民話／31 伊勢・志摩の民話／32 栃木の民話／33 種子島の民話／34 種子島の民話／35 越中の民話／36 岡山の民話／37 屋久島の民話／38 屋久島の民話／39 栃木の民話／40 八丈島の民話／41 京都の民話／42 福島の民話／43 日向の民話／44 若狭・越前の民話／45 阿波の民話／46 周防・長門の民話／47 天草の民話／48 長崎の民話／49 大分の民話／50 遠江・駿河の民話／51 美濃の民話／52 福岡の民話／53 土佐の民話／54 土佐の民話／55 越中の民話／56 紀州の民話／57 埼玉の民話／58 加賀・能登の民話／59 大分の民話／60 佐賀の民話／61 鳥取の民話／62 茨城の民話／63 美濃の民話／64 上州の民話／65 三河の民話／66 尾張の民話／67 石見の民話／68 石見の民話／69 佐渡の民話／70 越後の民話／71 佐賀の民話／72 茨城の民話／73 若狭・越前の民話／74 近江の民話／75 奈良の民話／別1 みちのくの民話／別2 みちのくの長者たち／別3 みちのくの和尚たち／別4 みちのくの百姓たち</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域別の巻構成。 ・話者情報が明記されている巻とそうでない巻がある。 ・方言で記載されている巻とそうでない巻がある。
<p>⑨『読みがたり各県のむかし話』全47巻（日本標準）2004～2006年（1973～1978年刊行の『各県のむかし話』の改訂版）</p>	<p>読みがたり北海道のむかし話（以下、47都道府県名を冠したタイトル）</p> <p>※以下の巻は大部分が共通語的文体。 北海道／埼玉／東京／神奈川／広島／山口／熊本／沖縄</p> <p>※徳島は旧版が刊行されておらず、2006年に刊行されたものが初版。一人の編者が再話をしており、文体が均一的（地の文は共通語的で会話文は共通語と方言が混在）に整えられている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県別の巻構成。 ・話者情報が明記されている巻とそうでない巻がある。 ・方言で記載されている巻とそうでない巻がある。 ・各県の教育関係者が組織的に編纂。 ・各巻とも同程度の分量(典型的な昔話以外にも収録)。 ・地域内での採話地のパランスが考慮されている。 ・各巻とも冒頭にその地域の方言についての解説があり、「ふるさとのことばを味わう」ことを目指している。

[資料 2-1] 「方言ももたろう」 公刊資料収録音声対照表

- (A) 杉藤美代子監修・著『CD-ROM 方言ももたろう』富士通BSC(『マルチメディア方言ライブラリ 日本列島ことばの探検 全国編』(1998年刊行、富士通BSC)の増補版。1989-1992年度科学研究費補助金重点領域研究「日本語音声における韻律的特徴の実態とその教育に関する総合的研究」(代表:杉藤美代子)による。)
- (B) 佐藤亮一監修(1997)『日本の方言大研究7 ききくらべよう 日本の方言』ポプラ社
- (C) 佐藤亮一監修(2002)『お国ことばを知る 方言の地図帳(新版 方言の読本)』小学館
- (D) 佐藤亮一監修(2007)『ポプラディア情報館 方言』ポプラ社

◎: 文字化テキストあり ○: 音声のみ

	地点	話者性別	(A)	(B)	(C)	(D)
01-1	北海道函館市	男性				◎
01-2	北海道名寄市	男性	○			
01-3	北海道静内郡静内町	男性	○			
02	青森県五所川原市	男性	○	◎	○	◎
03-1	岩手県花巻市	男性				◎
03-2	岩手県花巻市	男性	○			
03-3	岩手県宮古市	男性	○			
04	宮城県気仙沼市	男性	○		○	◎
05	秋田県横手市	男性	○			◎
06	山形県東田川郡三川町	男性	○	◎	○	◎
07-1	福島県大沼郡会津美里町(旧会津高田町)	男性				◎
07-2	福島県大沼郡会津美里町(旧会津高田町)	男性	○			
08	茨城県水戸市(旧東茨城郡内原町)	男性	○			◎
09	栃木県さくら市(旧塩谷郡氏家町)	男性	○			◎
10	群馬県吾妻郡中之条町(旧吾妻郡六合村)	男性	○			◎
11	埼玉県秩父市	男性				◎
12-1	千葉県市原市	男性	○			◎
12-2	千葉県銚子市	男性	○			
13	東京都港区	男性	○			◎
14	神奈川県秦野市	男性	○			◎
15-1	新潟県三条市	男性				◎
15-2	新潟県十日町市	男性	○			
15-3	新潟県佐渡郡真野町	男性	○			
16	富山県南砺市(旧東礪波郡上平村)	女性	○		○	◎
17	石川県金沢市	女性	○			◎
18	福井県越前市(旧武生市)	男性				◎
19	山梨県南アルプス市(旧中巨摩郡白根町)	男性	○			◎
20-1	長野県松本市	男性	○			◎
20-2	長野県下伊那郡天龍村	男性	○			
21-1	岐阜県不破郡垂井町	男性				◎
21-2	岐阜県揖斐郡藤橋村	女性	○			

22-1	静岡県静岡市	男性	○		○	◎
22-2	静岡県浜松市	男性	○			
23	愛知県名古屋市	女性	○	◎	○	◎
24	三重県尾鷲市	男性	○			◎
25	滋賀県大津市	男性				◎
26-1	京都府京都市	女性				◎
26-2	京都府京都市	男性	○	◎	○	
27-1	大阪府大阪市	男性			○	◎
27-2	大阪府大阪市	女性	○			
28-1	兵庫県姫路市	男性	○			◎
28-2	兵庫県出石郡出石町	男性	○			
29-1	奈良県吉野郡十津川村	男性				◎
29-2	奈良県生駒郡斑鳩町	男性	○			
30	和歌山県和歌山市	男性	○			◎
31	鳥取県米子市	男性				◎
32	島根県松江市	男性	○		○	◎
33	岡山県岡山市	男性	○		○	◎
34-1	広島県広島市	男性				◎
34-2	広島県賀茂郡大和町	男性	○			
35-1	山口県山口市	男性				◎
35-2	山口県山口市	女性	○	◎	○	
36	徳島県阿南市	女性	○			◎
37-1	香川県高松市	男性				◎
37-2	香川県高松市	男性	○			
37-3	香川県観音寺市	男性	○			
38	愛媛県西予市(旧東宇和郡明浜町)	男性	○			◎
39-1	高知県四万十市(旧中村市)	男性	○			◎
39-2	高知県高知市	男性	○			
40	福岡県福岡市	男性	○		○	◎
41	佐賀県佐賀市	男性	○			◎
42-1	長崎県長崎市	男性				◎
42-2	長崎県長崎市	男性	○			
42-3	長崎県壱岐郡郷ノ浦町	男性	○			
43-1	熊本県熊本市	女性	○			◎
43-2	熊本県天草郡苓北町	男性	○			
44	大分県大分市	男性	○			◎
45	宮崎県都城市	男性	○			◎
46	鹿児島県鹿児島市	男性	○	◎	○	◎
47-1	沖縄県那覇市	女性	○	◎	○	◎
47-2	沖縄県国頭郡今帰仁村	男性	○			
収録地点(話者)数			55	7	14	47
異なり地点(話者)数			71			

補足1 (A)と(D)で共通する話者の音声を比較したところ、(A)には存在する以下の下線部分の音声が、(D)では削除されていた。(16については同じ話者の異なるテイクを採用しているようである。)

02 青森県五所川原市

①エー ムガシ ムガシ アルドゴニ ジサマド バサマガ アッテイダド。

08 茨城県水戸市(旧東茨城郡内原町)

②ソシテ オジーサンワ ヤマエ タキギ トリニ オバーサンワ カワエ センタクニ イッタシダド。

16 富山県南砺市(旧東礪波郡上平村)

①ムカシー ドコヤラニナ ジーサト ババサガ イヤッタトヨ。

17 石川県金沢市

②オジーサンワ ヤマエ シバカリニ オバーサンワ カヤ..... カワエ センタクニ ユキマシタ。

28-1 兵庫県姫路市

⑤ホシテナ オバーサンガナ モモヲナ キロートスルトナ モモガ パーット フターツニ ワカレテナ ナカカラ オーキナ オーキナ オトコノコガ ウマレテキマシタンヤト。

⑥ホシテ オジーサントナ オバーサンワナ ソノ コニ モモタローユー ナヲ ツケタンヤト。

43-1 熊本県熊本市

⑤バーサンガ ソン モモバ ウッチキローテサスト ソン モモヤツガ フタチニ キャーワレチナカカル フトシタ フトシタ モー マンマルシタ フトカ オトコンコヤツガ ウマレテキタモンナー。

44 大分県大分市

①モモタロハンノ ハナシオ シテキカセルケン キキナイエ。ムカシナー アルトコニ ジーヤントバーヤンガ オッタント。

⑤バーヤンガ ソン モモヲ キローチシタトコロガ モモンヤツガ パカーント フタツニ ワレチソン ナカカラ オーケン オトコノコガ デチキチナ マ タマガッタモタマガランカ ジーヤンコリヤー オーゴッチャーチャーチ

⑥ジーチャント バーヤンワ ソン コニ モモタローチャー ナヲ ツケタント。オモシロカッタカヤー。

補足2 15-2(新潟県十日町市)と15-3(新潟県佐渡郡真野町)は話者は異なるが、文字化はまったく同じものである。いずれかで作成された原稿をもとに収録された可能性がある。

〔資料 2-2〕「方言ももたろう」の敬語の出現パターン

尊:尊敬語 丁:丁寧語

	地点	①ありました			②行きました			③流れてきました			④帰りました			⑤生まれました			⑥つけました		
		尊	丁	使用形式	尊	丁	使用形式	尊	丁	使用形式	尊	丁	使用形式	尊	丁	使用形式	尊	丁	使用形式
01-1	北海道函館市			○ イダシテ			イッダサ			○ ナガレデキマシタ			○ モツテカエリマシタ			○ ウマレデキマシタ			○ ツケマシタ
01-2	北海道名寄市			イタンダソーダヨ			イッタンダト			ナガレデキタンダソーダ			モツテカエッテ			○ ウマレマシタ			○ ツケマシタ
01-3	北海道静内郡静内町			○ オリマシタ			○ ユキマシタ			○ ナガレデキマシタ			○ カエリマシタ			○ ウマレマシタ			○ ツケマシタ
02	青森県五所川原市			アッテイダド			イッダド			ナガレデキダド			モツテキダド			ウマレデキダド			ツケダッズ
03-1	岩手県花巻市			イダッダド			イッダド			ナガレデキダド			ケーッダド			ウマレデキダド			ツケダド
03-2	岩手県花巻市			アッダドサ			イッダド			ナガレデキダド			カエッダド			ウマレダド			ツケダドサ
03-3	岩手県宮古市			イダード			イッダード			ナガレデキタード			モツテカエッタード			ウマレダード			ツケダード
04	宮城県気仙沼市			アッダドッサー			イッダドッサー			ナガレデキタドッサー			ケーッダドッサー			ウマレダドッサー			ツケダドッサー
05	秋田県横手市			イデアッダド			イッダド			ナガレデキタド			カエッテキタド			ウマレダド			ツケダド
06	山形県東田川郡三川町			イッダケドヤ			イッダケドヤ			ナガレデキタケドヤ			ケタケドヤ			ンマレデキタケドヤ			ツケダドヤ
07-1	福島県大沼郡会津美里町			イダッダド			イッタド			ナガレデキタド			ケッテキタド			ウマッチャド			ツケタソーナ
07-2	福島県大沼郡会津美里町			イタダド			イッタダド			ナガッテキタダド			カエッタダド			ウマッタダド			ツケタダド
08	茨城県水戸市			スンデイタンダド			イッタンダド			ナガレデキタンダド			カエッタンダド			ンマレタンダド			ツケタンダド
09	栃木県さくら市			イダシタド			イッタンダド			ナガレデキタンダド			ケーッタンダド			ウマレタンダド			ツケタンダド
10	群馬県吾妻郡中之条町			アッタダッチューヨ			イッタダッチューヨ			ナガレデキタダッチュー			ケーッタダッチュー			ウマレデキタダッチューヨ			ツケタダッチューヨ
11	埼玉県秩父市			アッタトサ			イッタトサ			ナガレデキタンダト			ケーッタト			デキタツツヨ			ツケタンダト
12-1	千葉県市原市			イダダ			イッタダ			ナガレデキタダ			ケーッタラ			デデキタダ			ツケタダッテヨ
12-2	千葉県銚子市			イタツチュヨ			イッタチュヨ			ナガレデキタツチュヨ			モツテキタツチュヨ			ウマレタツチュヨ			ツケタツチュヨ
13	東京都港区			○ アリマシタ			○ ユキマシタ			○ ナガレデキマシタ			○ カエリマシタ			○ ウマレマシタ			○ ツケマシタ
14	神奈川県秦野市			○ イマシタ			○ イキマシタ			○ ナガレデキマシタ			○ ケーリマシタ			ウマレタンダトヨ			ツケタンダトヨ
15-1	新潟県三条市	●		イラッタッテヤ	●		イガッタッテヤ			ナガレデキタッテヤ	●		ケーラッタッテヤ			ウマレデキタッテヤ	●		ツケラッタッテヤ
15-2	新潟県十日町市			アッタト			イッタト			ナガレデキタト			カエッタト			○ デマシタ			ツケタトサ
15-3	新潟県佐渡郡真野町			アッタト			イッタト			ナガレデキタト			カエッタト			○ デマシタ			ツケタトサ
16	富山県南砺市	●		イヤッタトヨ	●		イキヤッタトヨ			ナガレデキタトヨ	●		カエリヤッタトヨ			ンマレタトヨ	●		ツケヤッタトヨ
17	石川県金沢市			○ アリマシタ			○ ユギマシタ			○ ナガレデキマシタ			○ カエリマシタ			○ ウマレマシタ			○ ツケマシタ
18	福井県越前市			イタンニヤト			イッタンニヤト			ナガレデキタンニヤト			モツテカエッタンニヤト			ウマレタンニヤト			ツケタンニヤト
19	山梨県南アルプス市			イテナ			イッタ			ナガレデキotta			ケーッタ			デデキタダ			ツケタツチューヨ
20-1	長野県松本市			イタッテサー			イタッテサー			ナガレデキタッテサー			ケーッタッテサー			ウマレタッテサー			ツケタッテサー
20-2	長野県下伊那郡天龍村			アッテヨ			イッテヨ			ナガレデキテヨ			カエッテヨ			ウマレテヨ			ツケタノヨ
21-1	岐阜県不破郡垂井町	●		ゴザッタ	●		イカシタンジャ			ナガレデキヨッタンジャ	●		カエッテゴザッタ			ウマレテッタ	●		ツケヤシタ
21-2	岐阜県揖斐郡藤橋村			オッタト			イッタト			ナガレデキタト			モドッタト			ウマレタト			ツケタト
22-1	静岡県静岡市			イテナ			イッタ			ナガレデキタ			キヤーッタ			ウマレタ			ツケタ
22-2	静岡県浜松市			アッタダネ			イッタダネ			ナガレデキテナ			カエッタダヨ			ウマレテサ			ツケタダ
23	愛知県名古屋	●		ゴザッテ	●		イカシタゲナ			ナガレデキテナ	●		キヤーランタゲナ			ウマレタゲナ	●		ツケサンタゲナ

24	三重県尾鷲市		オットユウワイ		イットユウワイ		ナガレキタン ジャツチュウワイ		カエツタソー ジャイ		ウマレキタン ジャツチュウワイ		ツケタンジャ トユウワイ
25	滋賀県大津市	●	イテハツタン ヤテ	●	イカハツタン ヤテ		ナガレテキ ヨツタンヤツテ	●	モツテカエラ ハツタンヤテ		ウマレタンヤ テ	●	ツケハリマシ タンヤツテ
26-1	京都府京都市	●	イヤハツタン エ	●	ユカハツタン エ		ナガレテキタ ンエ	●	モツテカエラ ハツタン		ウマレタンヤ	●	ツケハツタン エ
26-2	京都府京都市	●	○イハリマシタ ヨ		イッタノ		○ナガレテキマ シタ		カエツタン		ウマレタンヤ テ		ツケタンヤ
27-1	大阪府大阪市		オツtent		イツtent		ナガレテキテ ント		カエツtent		ウマレtent		ツケtent
27-2	大阪府大阪市	●	スデハツテ ン	●	イカハツテン		ナガレテキテ ン	●	カエラハツテ ン		デテキテン	●	ツケハツテン
28-1	兵庫県姫路市		オツタンヤト		イツtent		ナガレテキタ ンヤト		○モツテカエリマ シタンヤト	○	ウマレテキマ シタンヤト		ツケタンヤト
28-2	兵庫県出石郡 出石町	●	スドンナツ タンダガナ	●	イキナツタン ダガナ		ナガレテキタ ンダガナ	●	モツテカエリ ナツタンダガナ		ウマレタンダ ガナ	●	ツケナツタン ダゼ
29-1	奈良県吉野郡 十津川村		オツタンヤト		イツタンヤト		ナガレテキタ ンヤト		インダンヤ		ウマレタンヤ ト		ツケタンヤト
29-2	奈良県生駒郡 斑鳩町		イタ		イッタ		ナガレテキタ		カエツタ		ウマレタ		ツケタ
30	和歌山県和歌 山市		イタンヨ		○イキマシタ		ナガレテキタ ンヨ		カエツタンヨ		ウマレタンヨ		ツケタンヤ
31	鳥取県米子市	●	オーナツタゲ ナ	●	イキナツタダ トヤ		ナガレテキタ ダゲナ	●	カエリナツタダ ト		ウマレテキタ ダトヤ		ツケタダトヤ
32	島根県松江市		オツタゲナ		イキタゲナ		ナガレテキタ ゲナ		モドツタゲナ		ウマレタゲナ		ツケタゲナ
33	岡山県岡山市		○イマシタ		○イキマシタ		○ナガレテキマ シタ		○イニマシタ	○	○ウマレマシタ		○ツケマシタ
34-1	広島県広島市		オツタンジャ ゲナ		イツタンジャ ゲナ		ナガレテキタ ンジャゲナ		カエツタンジャ ゲナ		ウマレタン ジャゲナ		ツケタンジャ ゲナ
34-2	広島県賀茂郡 大和町	●	オリンサツタ		イツテンガン シタ		ナガレテキタ ンシヤト		モドツタンジャ ゲナ		ウマレタン ジャゲナ		ツケタンジャ ゲナ
35-1	山口県山口市		オツタイノ		イツタイノ		ナガレテキタ トイノ		モツテインダト イノ		ウマレトイノ		ツケタイノ
35-2	山口県山口市		オツタイノー	●	イツチャツタ イノー		ナガレテキ ヨツタ	●	インジャツタ	●	ウマレチャツ タ	●	ツケチャツタ ゾーナ
36	徳島県阿南市		アツタンヤト		イツタンヤト		ナガレテキタ ンヤト		カエツタンヤト		ウマレタンヤ ト		ツケタンヤト
37-1	香川県高松市		オツタンヤ		イッキヨツタ ンヤ		ナガレテキタ ンヤ		モツテインダ ンヤ		ウマレタンヤ		ツケタンヤ
37-2	香川県高松市		オツタンヤト		イツタンヤト		ナガレテキタ ンヤト		モツテカエツタ ンヤト		ウマレテキタ ンヤト		ツケタンヤト
37-3	香川県観音寺 市		オツタンヨ		イツタンヤ		ナガレテキタ ンヨ		モツテキタ		ウマレタンヨ		ツケタンヨ
38	愛媛県西予市		アツチノン＝		イツタガト		ナガレテキタ ガト		インダガト		デチキタガト		ツケタガト
39-1	高知県四万十 市		オツタツーフ ヨ		イツタツーフ ヨ		ナガレテキタ ツーフヨ		インダツーフ ヨ		ウマレタツーフ ヨ		ツケタツーフ ヨ
39-2	高知県高知市		オツタ		イツタ		ナガレテキ ヨツテノー＝		モツテカエツテ キタ		デテキタ		ツケタガヤト
40	福岡県福岡市	●	オンシャツタ ゲナ	●	イキンシャツ タゲナ		ナガレテキタ ゲナ	●	カエンシャツタ ゲナ	●	ウマレテキン シャツタゲナ	●	ツケンシャツ タゲナ
41	佐賀県佐賀市	●	オンサツタ	●	イキンサツタ		ナガレテキタ モンノマイ	●	カエンサツタ	○	ウマレマシタ	●	ツケンサツタ
42-1	長崎県長崎市		オツタゲナ		イツタサ		ナガレテキタ トサ		カエツタツサ		ウマレトサ		ツケタツサ
42-2	長崎県長崎市	●	オンナツタゲ ナモンノー		イツタゲナ		ナガレテキタ ゲナモンノー	●	カエンナツタ ゲナ		ウマレタゲナ	●	ツケンナツタ ゲナ
42-3	長崎県杵岐郡 郷ノ浦町	●	オラシタツタ イ		イタツタイ		ナガレッキ タツタイ		モドツタツタイ		ウマレタツタイ		ツケタツタイ
43-1	熊本県熊本市	●	オラシタモン ナ	●	イカンタユー テナ＝		ナガレテキタ モンダケン＝	●	モツテカエラシ タモンナ		ウマレテキタ モンナ	●	ツケラシタテ タイ
43-2	熊本県天草郡 苓北町	●	オラシタ チューモンネ	●	イカンタモン ネ		ナガレテキタ モンネ	●	モドラシタモン ネ		ウマレテキタ モンネ	●	ツケラシタ チューモンネ
44	大分県大分市		オツtant		イツtant		ナガレテキキ タツチ		モチカエツタン ト		デチキチナ＝		ツケtant
45	宮崎県都城市	●	オイヤツタゲ ナ	●	イキヤツタゲ ナ		ナガレッキタ ゲナ	●	モドイヤツタゲ ナ		ウマレッキタ ゲナ	●	ツケヤツタゲ ナ
46	鹿児島県鹿児島 市	●	オイヤツタチ ワイ	●	イキヤツタ チワイ		○ナガレッキモ シタ	●	モドイヤツタ	○	○ンマレモシタ	○	○ツケモシタ
47-1	沖縄県那覇市	●	○メンシェー ビータン	●	○イチヤビタン		○ナガリティ チャービタン	●	○イチヤビタン	○	○ンマリティ チャービタン	○	○チキサビタン
47-2	沖縄県国頭郡 今帰仁村		ウイタンネ		チャイタンネ		ナガレツチャ ンネ		ケータンネ		デタンネ		チケタンネ

参考文献

- 石井正己（2003）『『昔話採集手帖』の方法』『東京学芸大学紀要. 第2部門 人文科学』54
- 大阪府小学校国語科教育研究会・「大阪のむかし話」編集委員会編（2005）『読みがたり大阪のむかし話』日本標準
- 酒井雅史（2019）「関西方言における素材待遇形式の分布—読みがたり昔ばなし資料を手がかりに—」『阪大日本語研究』31、大阪大学大学院文学研究科日本語学講座
- 野間純平（2014）「近畿方言におけるネン・テンの成立—昔話資料を手がかりに—」『阪大日本語研究』26、大阪大学大学院文学研究科日本語学講座
- 日高水穂（2013a）「昔話の「語りの型」の地域差—文末表現を中心に—」『日本語学会 2013 年度春季大会研究発表会予稿集』
- 日高水穂（2013b）「昔話と方言」石井正己編『子守唄と民話』三弥井書店
- 日高水穂（2018）「昔話の談話構造と表現形式にみる地域性」『國學院雑誌』119-11

（原稿提出日 2020 年 9 月 14 日）